

市民意識調査の結果

■調査概要

調査目的	珠洲市復興計画の策定において、市民の現状、復興に関する考え方を取り入れるため、生活全般の状況、お住まいの再建意向、お仕事の状況、まちづくりに望むこと等を把握する。
対象世帯	珠洲市の全世帯
調査期間	珠洲市にお住まいの方 2024（令和6）年6月25日～7月16日 珠洲市外にお住まいの方 2024（令和6）年8月2日～8月19日
配布数・回収数	①珠洲市にお住まいの方 郵便局による配達地域指定郵便 4,476 票 市内避難場所 370 票 計 4,846 票 ②珠洲市外にお住まいの方 石川県による2次避難者・広域避難者への発送 1,105 票 ③合計 配布数 5,951 票 回収数 2,459 票 回収率 41.3%

■調査結果

1. 回答者世帯の属性

問1① 世帯主の年齢

	件数	割合
39歳以下	68	2.8%
40～59歳	446	18.5%
60～74歳	991	41.1%
75歳以上	906	37.6%
全体	2411	100.0%

問1② 世帯主の性別

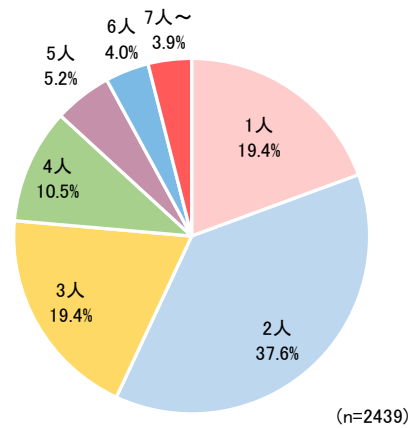
	件数	割合
男性	1866	76.7%
女性	555	22.8%
その他	1	0.0%
答えたくない	12	0.5%
全体	2434	100.0%

問11 地震発生時点のご住所

	件数	割合
宝立	404	16.7%
上戸	239	9.9%
飯田	250	10.3%
若山	295	12.2%
直	182	7.5%
正院	212	8.8%
蛸島	209	8.6%
三崎	368	15.2%
日置	90	3.7%
大谷	168	7.0%
全体	2417	100.0%

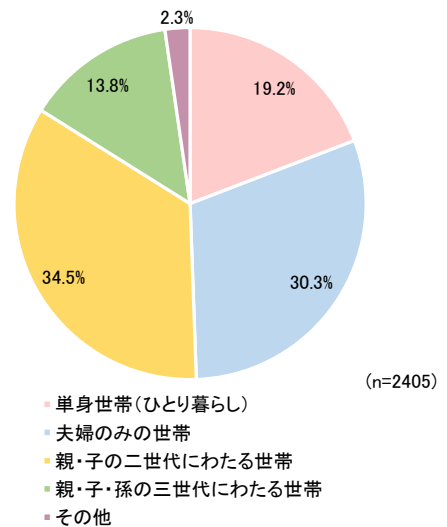
問2 地震発生時点（令和6年1月1日）に同居されていた世帯の人数をお答えください。（1つに○）

- ・「2人」と回答された世帯は約38%である。次いで「1人」が約19%、「3人」が約19%と続く。



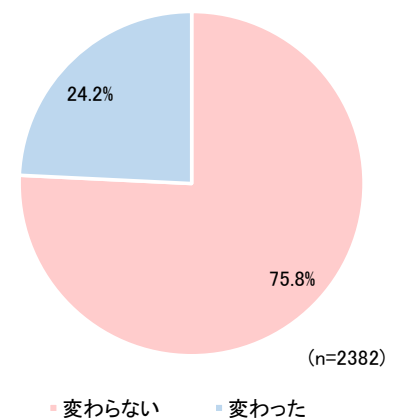
問3 地震発生時点に同居されていた世帯の構成をお答えください。（1つに○）

- ・「親・子の二世代にわたる世帯」と回答された世帯は約35%である。次いで「夫婦のみの世帯」が約30%、「単身世帯（ひとり暮らし）」が約19%と続く。



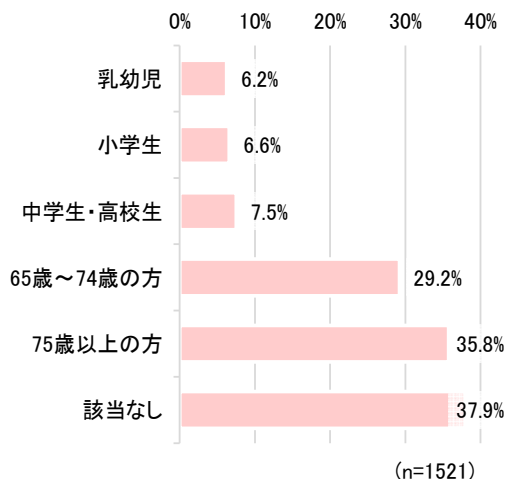
問4 地震発生時点と現在では、同居されている世帯の構成は変わりましたか。（1つに○）

- ・「変わらない」と回答された世帯は約76%である。
- ・一方で「変わった」と回答された世帯は約24%である。



問 5 地震発生時点に同居されていた家族に次のような方はいらっしゃいましたか。(すべてに○ ※あなたご自身を含む)

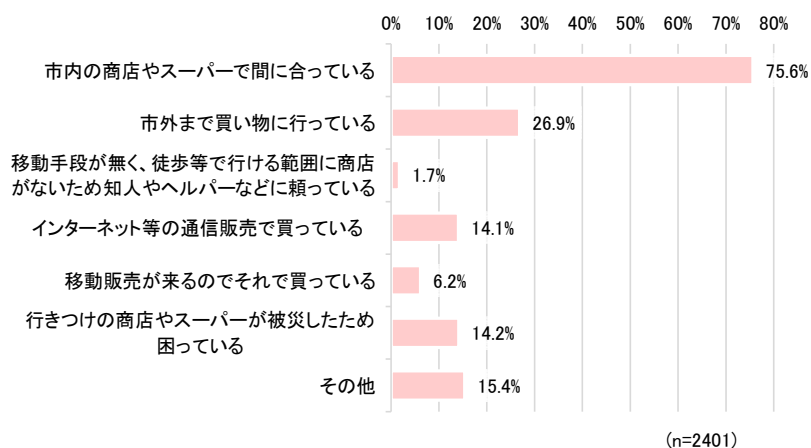
- ・「該当なし」と回答された世帯は約 38%である。次いで「75 歳以上の方」が約 36%、「65 歳～74 歳の方」が約 29%と続く。



2. 被災後の世帯の生活全般

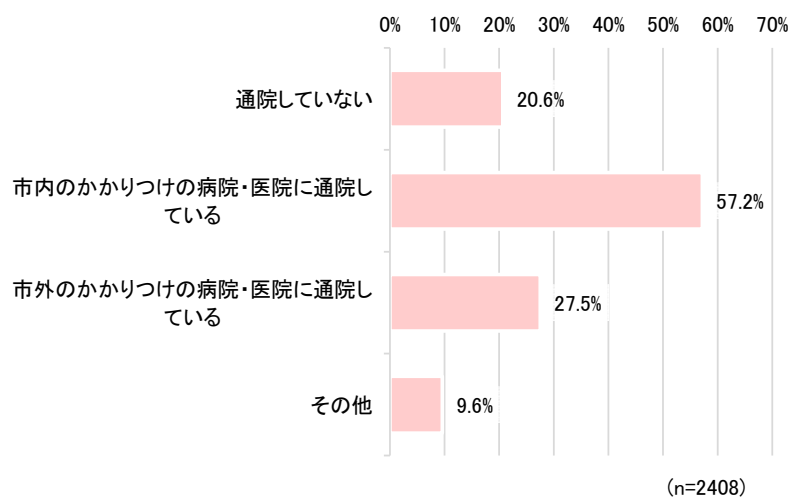
問 6 買物はどうされていますか (すべてに○)

- ・約 8 割の市民は市内の商店やスーパーで間に合っていると回答。
- ・商店やスーパーが被災したため困っていると回答した世帯は約 14%。



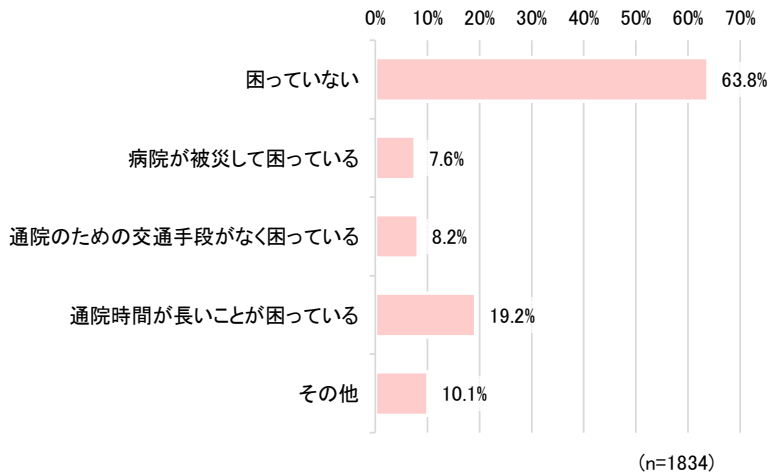
問 7 通院はどうされていますか (すべてに○)

- ・通院していない世帯は約 2 割である。
- ・市内のかかりつけの医療機関に通院している世帯は約 57%。
- ・市外に通院している世帯は約 28%。



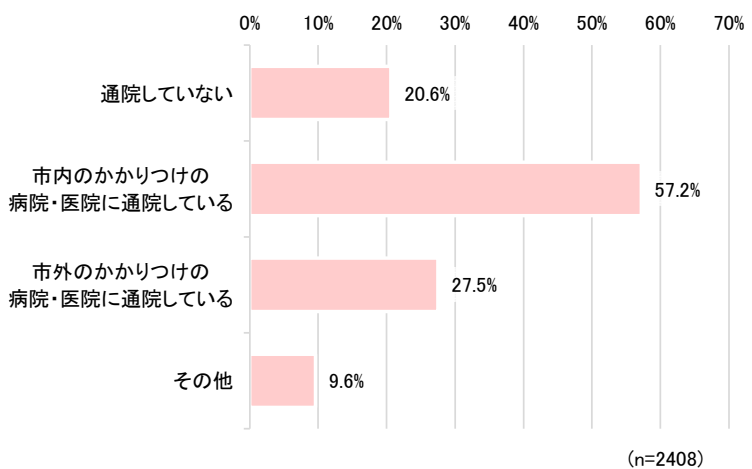
問8 問7で「通院している」と答えた方に伺います。通院にあたりお困りのことはありますか。(すべてに○)

- ・困っていないと回答した世帯は約64%。
- ・通院時間が長いことが困っていると答えた世帯は約19%。



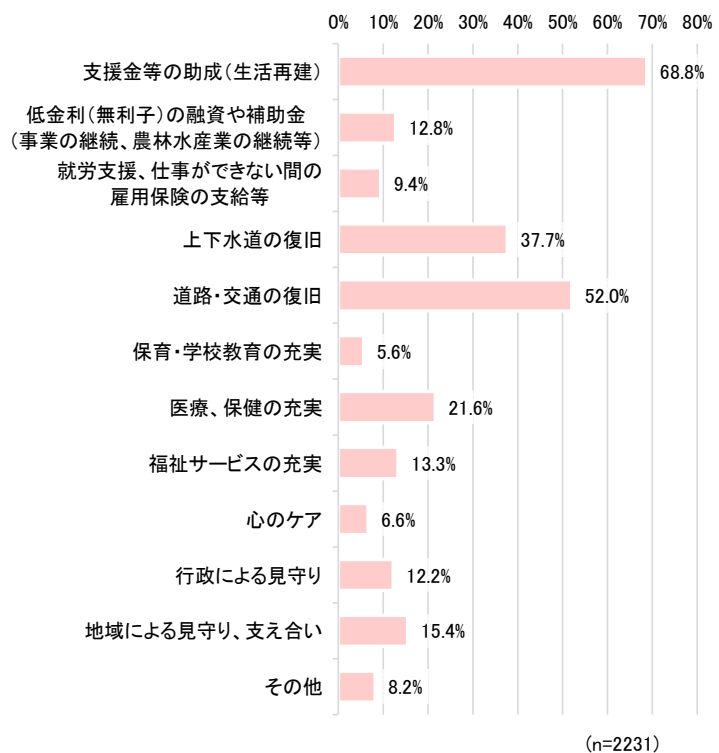
問9 お子さんの通園・通学はどうされていますか。(すべてに○)

- ・「該当しない」に回答した世帯は約88%である。次いで「子どもはこれまでの園や学校に通っている」が約8%と続く。



問10 住宅再建以外で震災以前の生活に戻るために必要な支援や対策は何ですか。(主なもの3つまで)

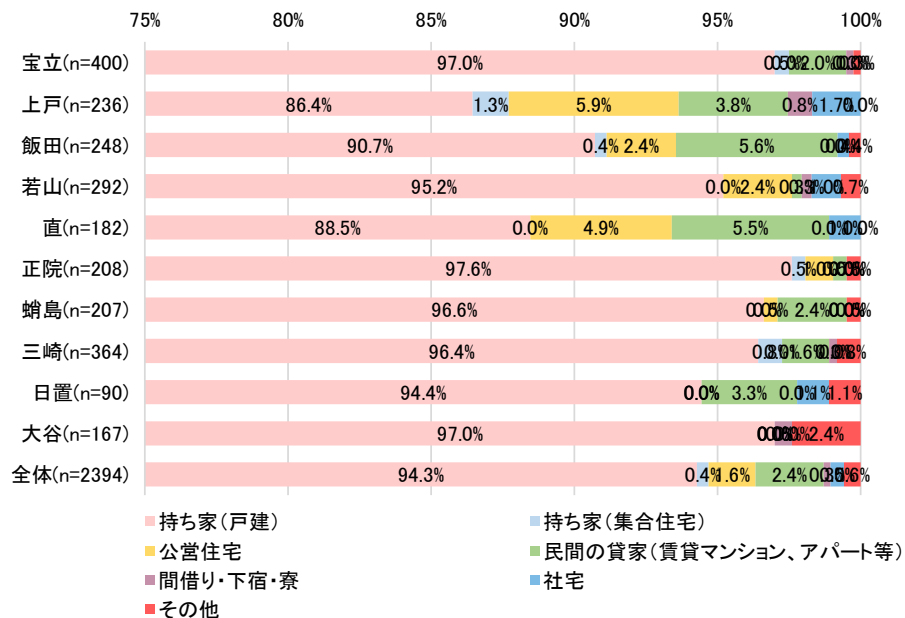
- ・「支援金等の助成」が最も多く約69%、次いで、「道路・交通の復旧」が52%、「上下水道の復旧」が約38%と続く。
- ・「医療、保健の充実」(21.6%)や、「地域による見守り、支え合い」(15.4%)を回答する世帯も多い。



3. お住まいについて

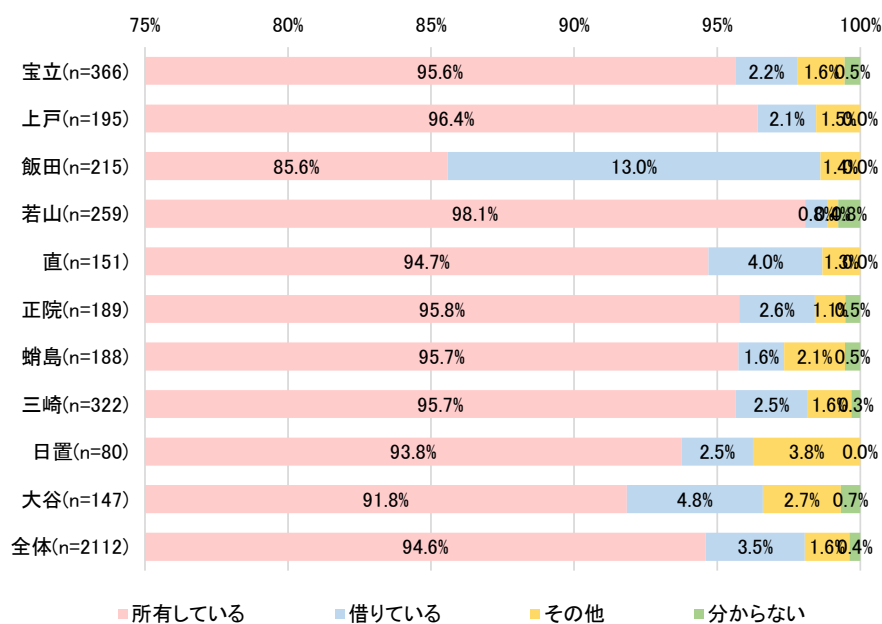
問 12① 地震発生時点のお住まいの種類はつぎのうちどれですか。(1つに○)

- ・全体で約94%が持ち家（戸建）である。
- ・上戸、飯田、直では持ち家（戸建）の割合が他地区と比べて低く、公営住宅、民間の貸家（賃貸マンション、アパート）が合計で1割程度みられる。



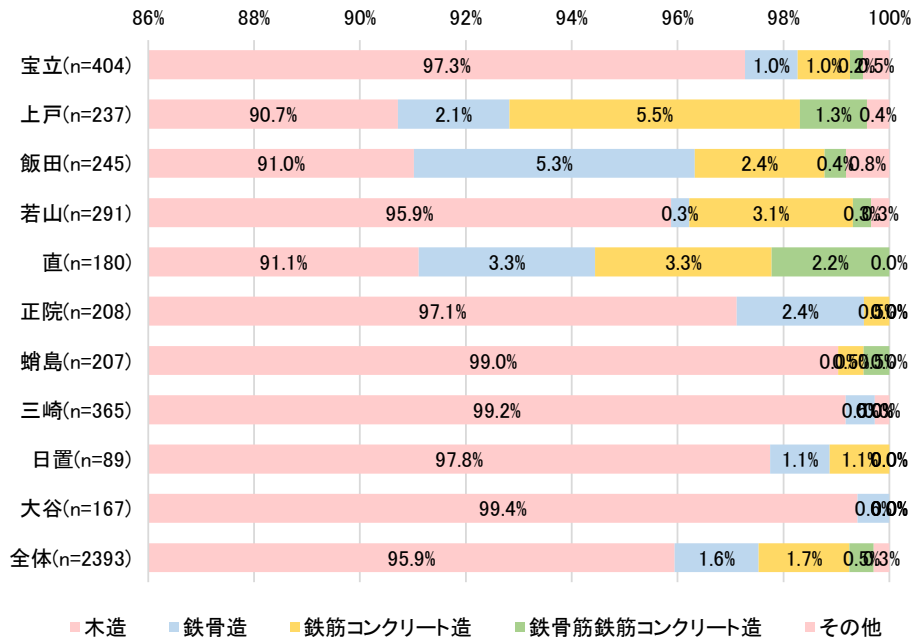
問 12② 土地の所有状況（持ち家（戸建）と回答した方）

- ・持ち家（戸建）における土地の所有状況は、全体で約95%が「所有している」である。
- ・飯田では「借りている」が13%と、他地区に比べて高い。



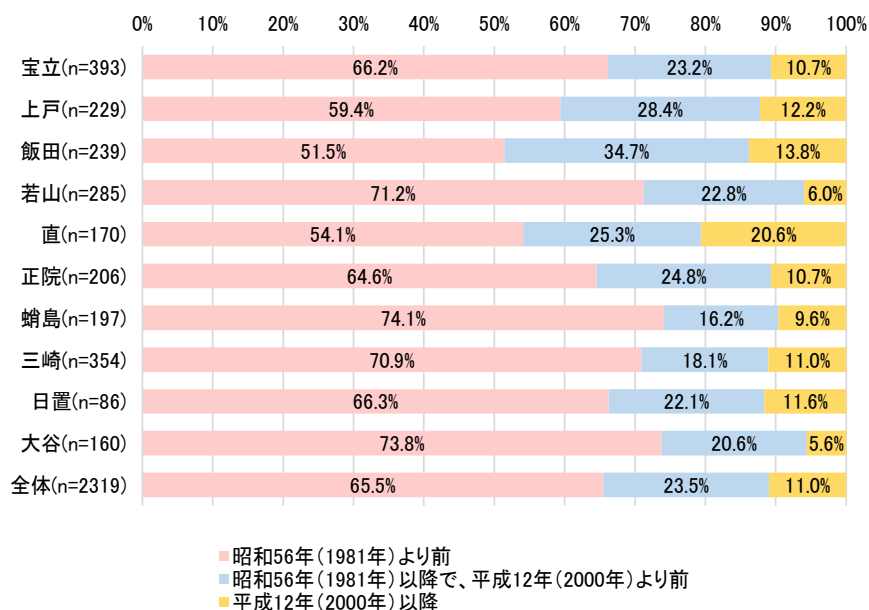
問 13 お住まいの構造（地震発生時点）

- ・全体で、木造が約 96%を占める。
- ・飯田、上戸、直では木造の割合が約 9割であり、鉄骨造、鉄筋コンクリート造がみられる。



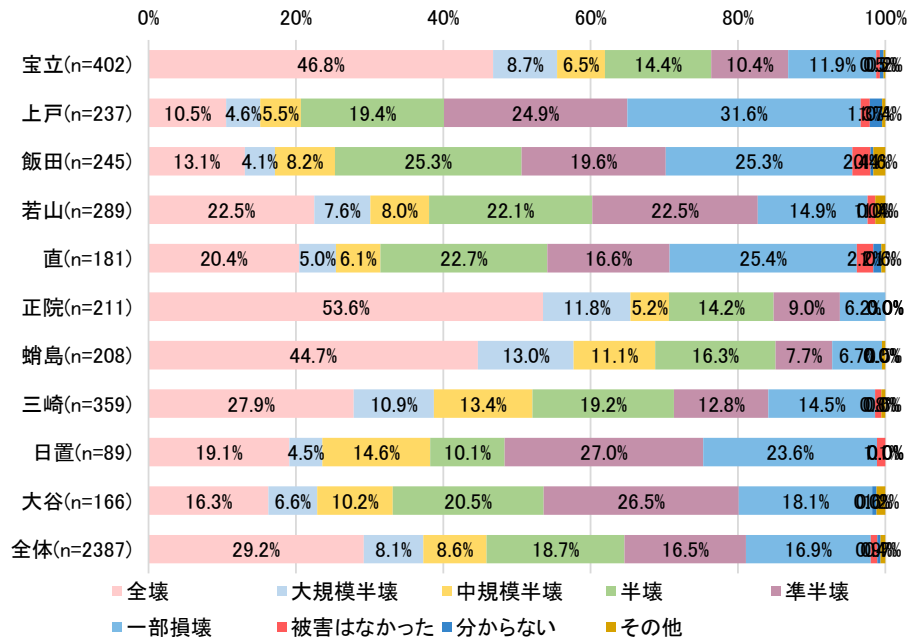
問 14 地震発生時点のお住まいを建てられた年はずぎのうちどれですか。（1つに○）

- ・全体で「昭和 56 年(1981 年)より前」の住居が約 66%を占める。
- ・「昭和 56 年(1981 年)より前」の住居が多い地区は、蛸島(74.1%)、大谷(73.8%)、若山(71.2%)、三崎(70.9%)である。
- ・上戸、飯田、直は昭和 59 年以降に建てられた住居が 4 割以上となっている。



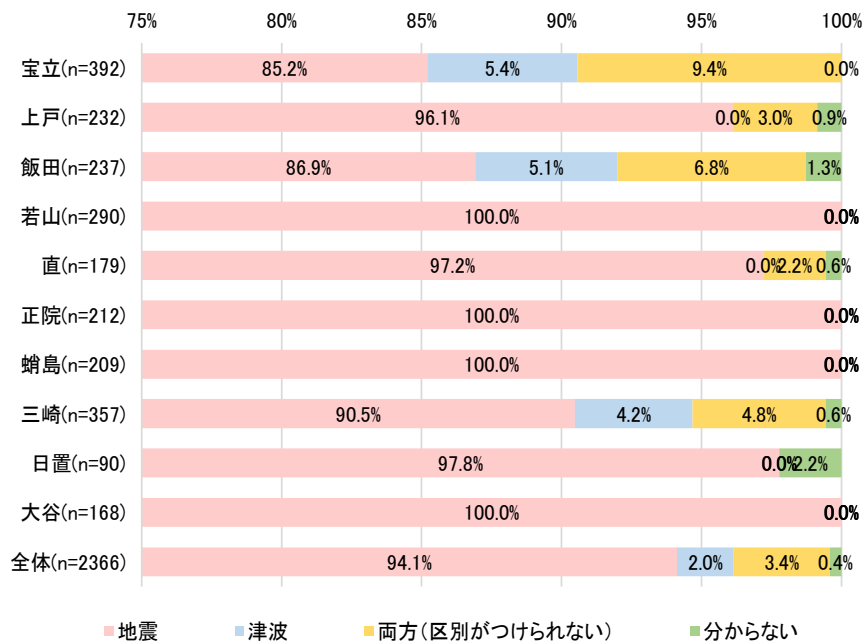
問 15 ご自宅の被災状況をお答えください。

・全壊～半壊までの割合が高い地区は、蛸島(85.1%)、正院(84.8%)、宝立(76.4%)、三崎(71.3%)である。



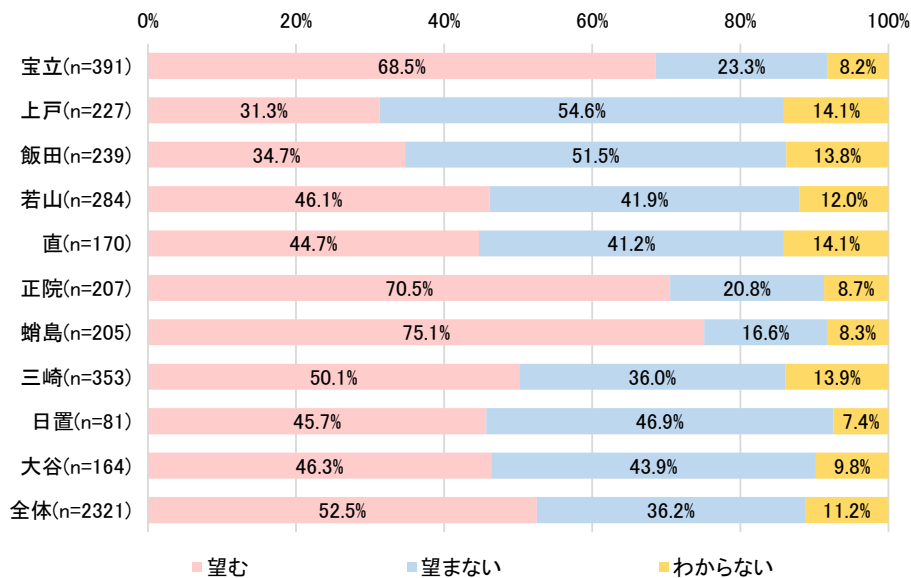
問 16 ご自宅の被災の主な原因をお答えください。

・宝立、飯田、三崎は津波の被害が約 1 割みられる。



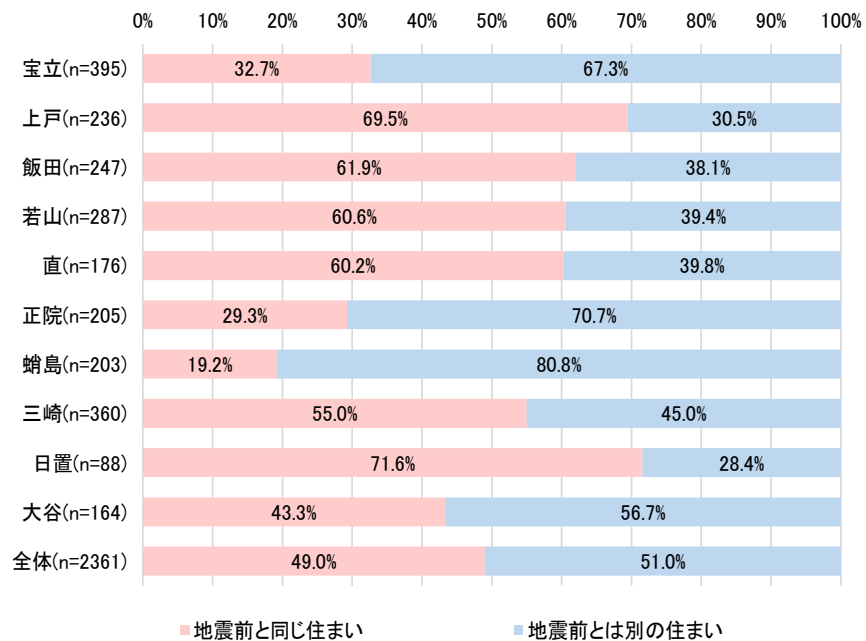
問 17 ご自宅の公費解体を望みますか

- ・公費解体を望む方は、全体で約 52.5%である。
- ・公費解体を望む方の割合が高い地区は、蛸島（75.1%）、正院（70.5%）、宝立（68.5%）である。



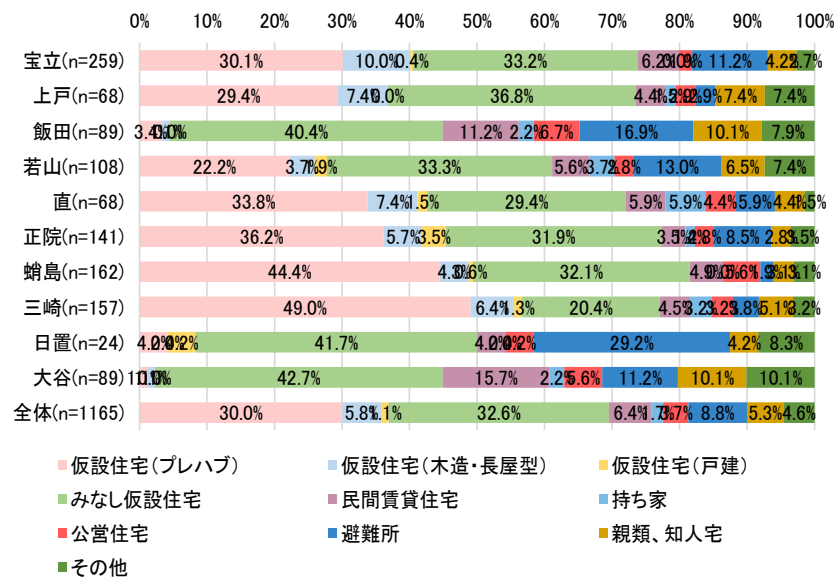
問 18 世帯主の方の現在のお住まいは、地震前と同じですか。

- ・全体で約 5 割の世帯が「地震前とは別の住まい」と回答された。
- ・「地震前とは別の住まい」と回答された世帯が多い地区は、蛸島（80.8%）、正院（70.7%）、宝立（67.3%）である。次いで大谷（56.7%）、三崎（45.0%）と続く。



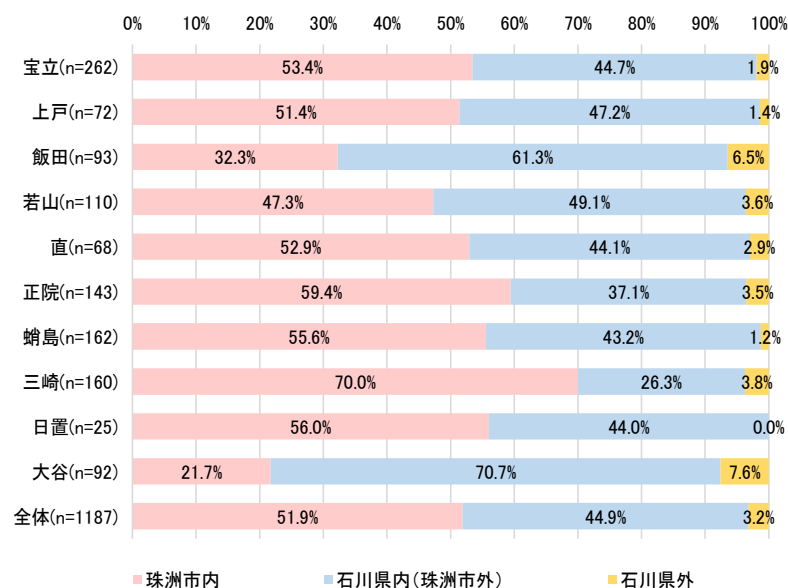
問 19 世帯主の方の現在のお住まいは次のうちどれに当てはまりますか。(問 18 で「地震前とは別の住まい」と回答された方のみ)

- ・問 18 で「地震前とは別の住まい」と回答された方で、約 7 割の世帯が仮設住宅、約 1 割の世帯が避難所に入居されている。
- ・「みなし仮設住宅」に入居されている世帯が多い地区は、大谷 (42.7%)、日置 (41.7%)、飯田 (40.4%) である。
- ・「避難所」に入居されている世帯が多い地区は、日置 (29.2%)、飯田 (16.9%) である。



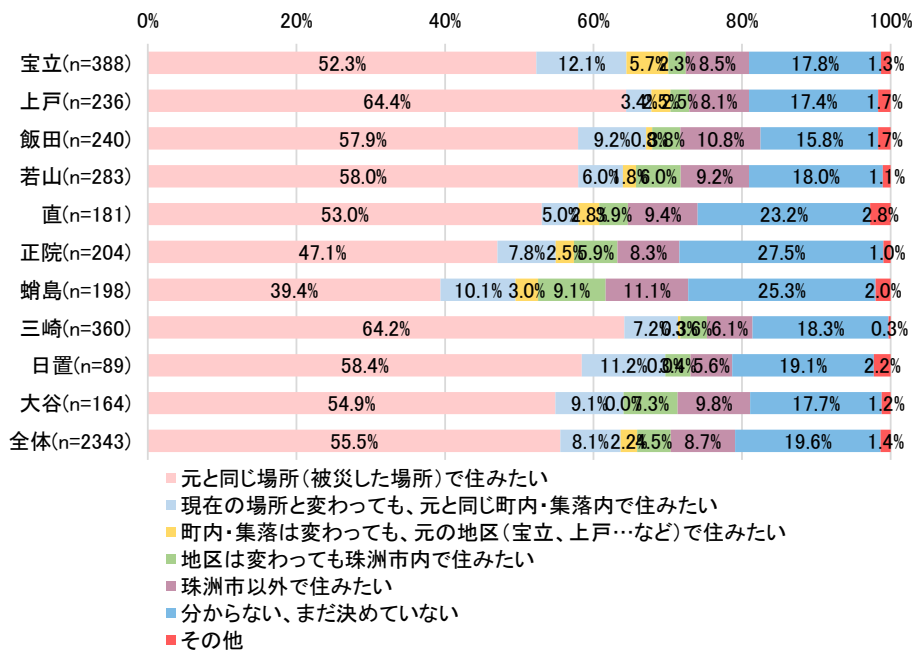
問 20 世帯主の方の現在のお住まいの場所はどちらですか。(問 18 で「地震前とは別の住まい」と回答された方のみ)

- ・問 18 で「地震前とは別の住まい」と回答された方で、約 5 割の世帯が珠州市外に住まわれている。珠州市外に住まわれている世帯が多い地区は、大谷 (70.7%)、飯田 (61.3%) である。



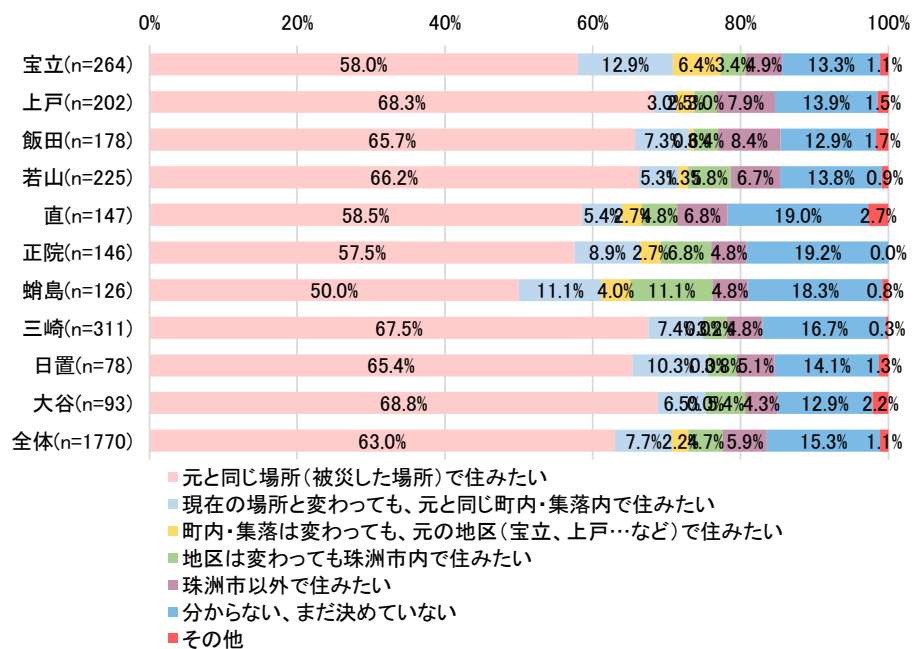
問 21 将来のお住まいについて、現在のお考えはどれですか。(1つに○)

- ・全体で、「元と同じ場所で住みたい」が約 56%、「元と同じ町内・集落内で住みたい」が約 8%であり、約 7割は、元の場所または同じ町内・集落内で住みたいと考えている。
- ・元の場所または同じ町内・集落内で住みたい人の割合が低いのは、蛸島(約 53%)、正院(約 57%)、直(約 61%)である。



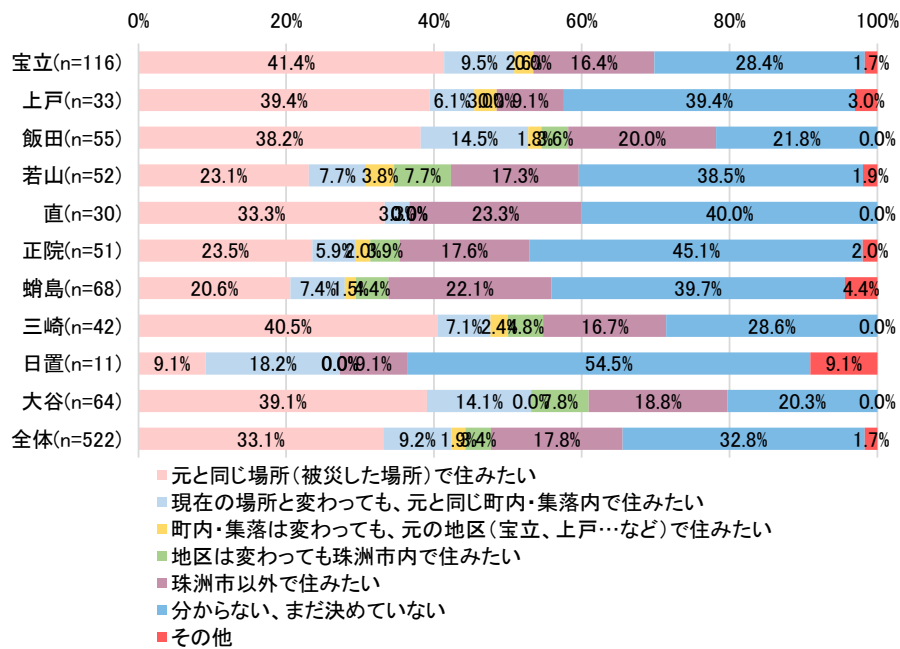
問 21【現在市内で居住】将来のお住まいについて、現在のお考え

- ・現在市内で住んでいる人は、「元と同じ場所で住みたい」が約 63%と高くなり、最も低い蛸島においても約 50%である。



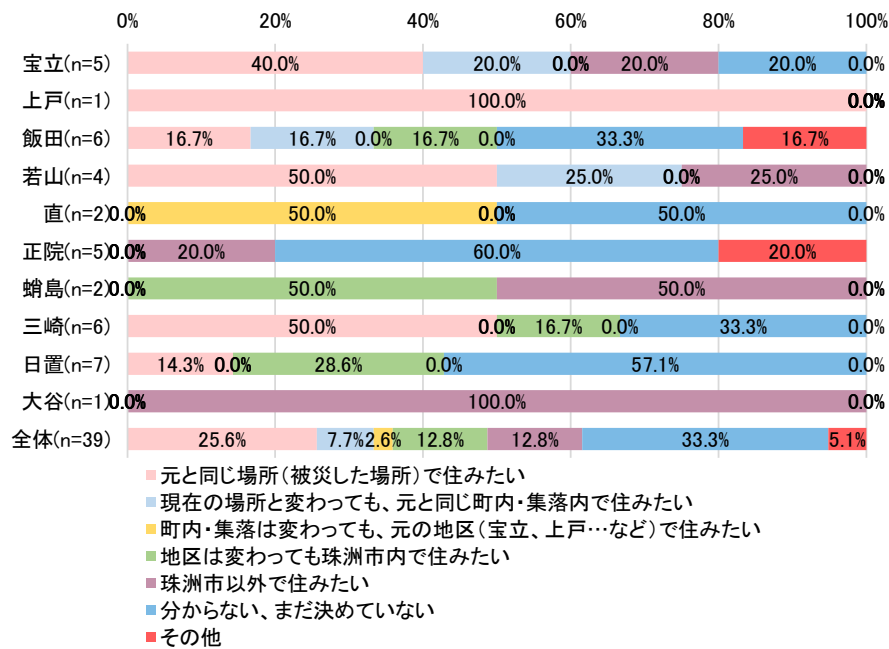
問 21【現在県内（珠洲市以外）で居住】将来のお住まいについて、現在のお考え

・現在県内（珠洲市以外）で住んでいる人は、「元と同じ場所で住みたい」が約 33%と低くなり、最も低い日置（回答者が少ない）では約 9%、次いで低い蛸島では約 21%である。



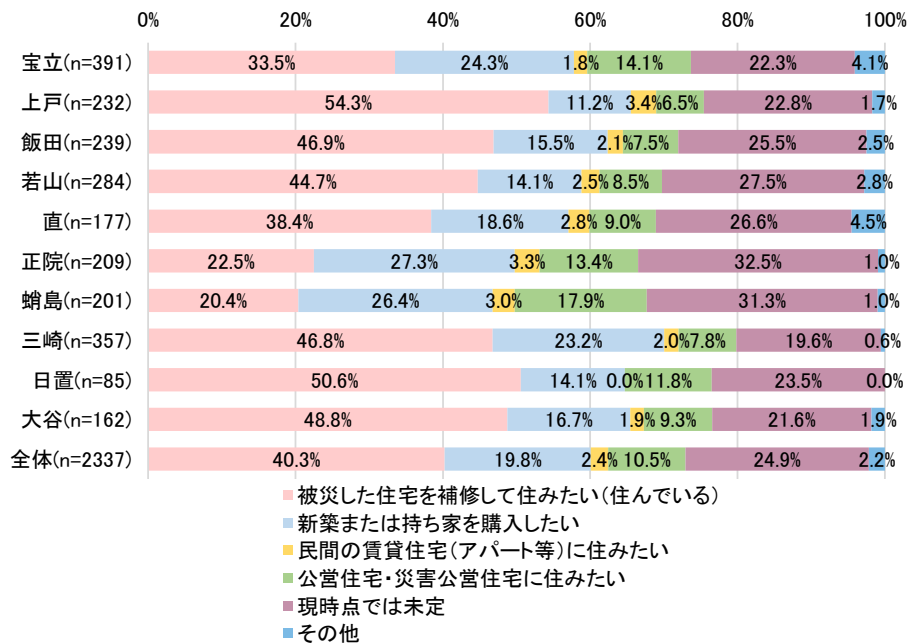
問 21【現在県外で居住】将来のお住まいについて、現在のお考え

・現在県外で住んでいる人は、「元と同じ場所で住みたい」が約 26%と低くなる。「分からない、まだ決めていない」が約 33%である。



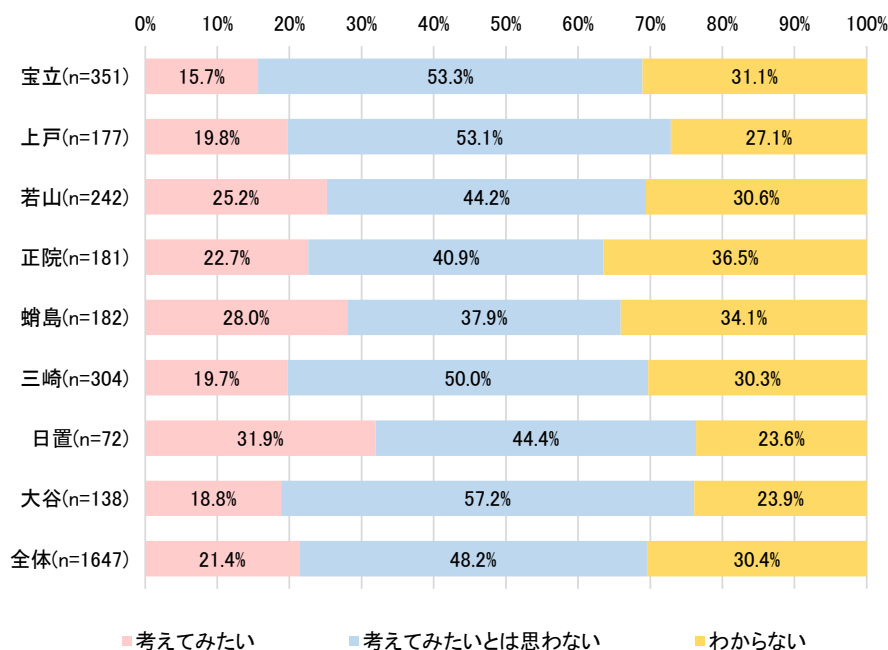
問 22 将来のお住まいについて、あなたの思いに最も近いものはどれですか。（1つに○）

- ・全体で、「被災した住宅を補修して住みたい」が約 40%、「新築または持ち家を購入したい」が約 20%、「現時点では未定」が約 25%である。
- ・蛸島では公営住宅・災害公営住宅へのニーズが高く、正院は未定の世帯が多い傾向にある。



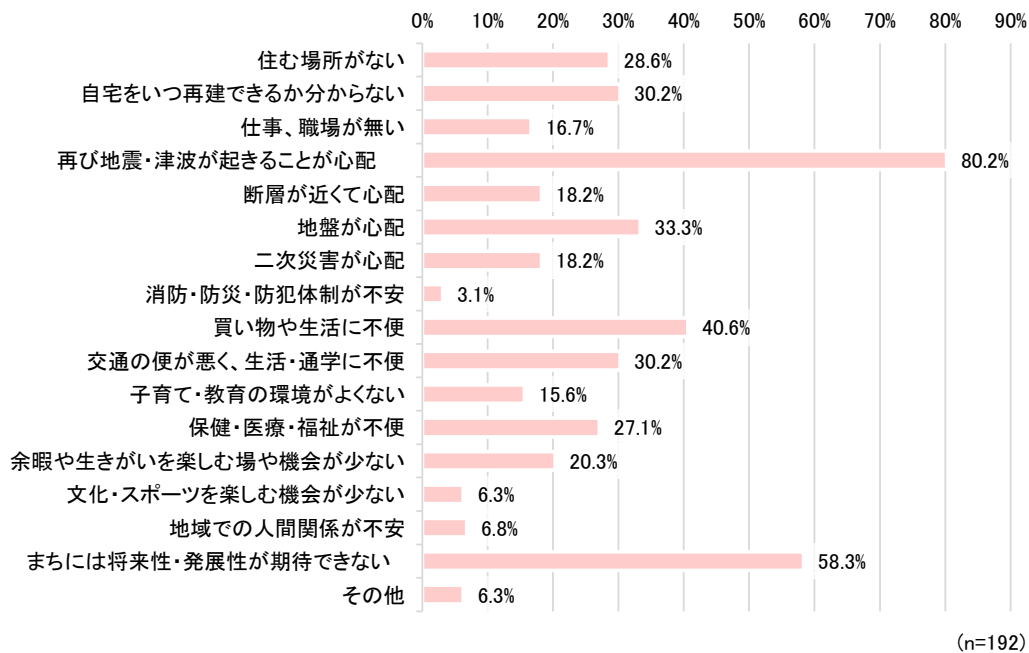
問 23 被災前に市内中心部（飯田、野々江周辺）以外にお住まいの方に伺います。自宅をそのままにし、珠洲市の中心部にもお住まい（アパートや高齢者の介護機能のある住宅など）のある住み方を考えてみたいと思いますか。

- ・全体で約 5 割の世帯が市内中心部への居住をを考えてみたいとは思わないと回答している。
- ・一方で市内中心部への居住をを考えてみたいと回答された世帯が多い地区は、日置（31.9%）、蛸島（28.0%）、若山（25.2%）である。



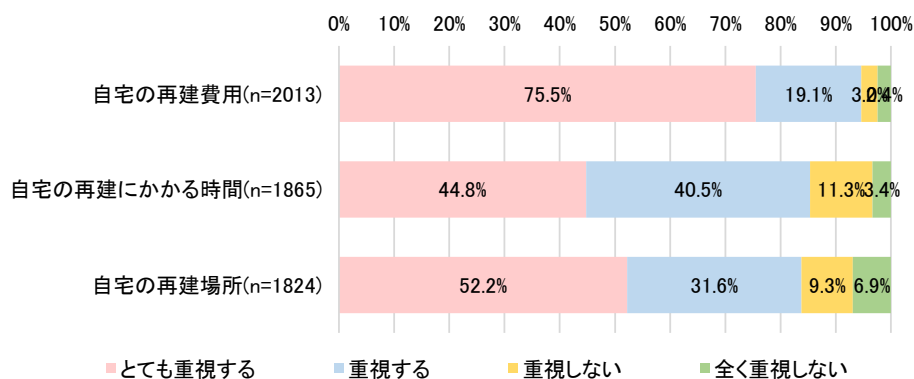
問 24 問 21 で「珠洲市以外で住みたい」と答えた方に伺います。その理由をお選びください（主なもの 5 つまで）。

- ・「再び地震・津波が起きることが心配」（80.2%）、「まちには将来性・発展性が期待できない」（58.3%）の回答が多く、次いで「買い物や生活に不便」（40.6%）、「地盤が心配」（33.3%）、「自宅をいつ再建できるか分からない」（30.2%）「交通の便が悪く、生活・通学に不便」（30.2%）が続く。



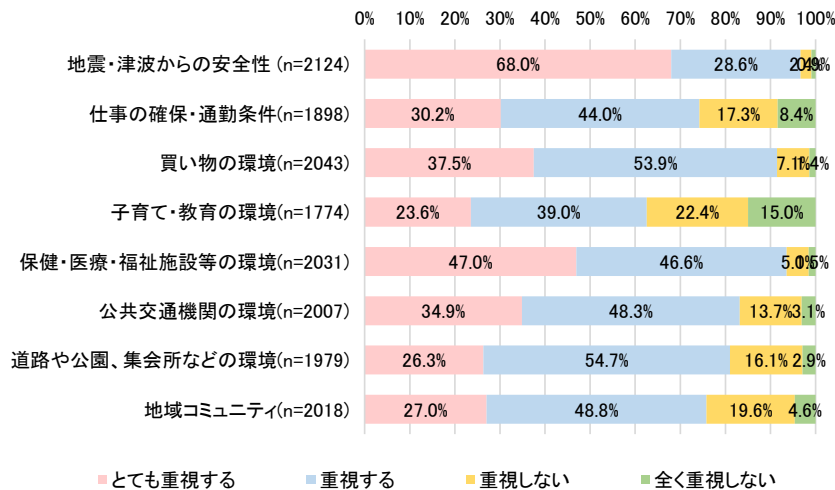
問 25 お住まいの再建について、それぞれに関し、どれくらい重視されるかお答えください。

- ・再建費用に関し「とても重視する」が約 76%と高いが、全項目で重視する人が多い。



問 26 お住まいの場所を考えるにあたり、それぞれに関し、どれくらい重視されるかお答えください。

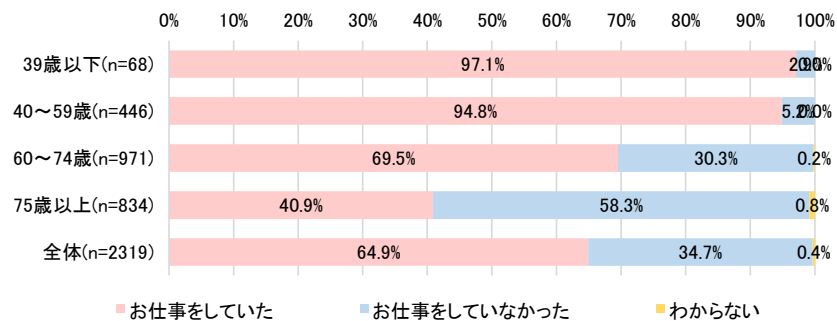
・「とても重視する」の回答割合が高い項目は、地震・津波からの安全性（68.0%）、保健・医療・福祉等の環境（47.0%）、買い物の環境（37.5%）である。



4. お仕事について

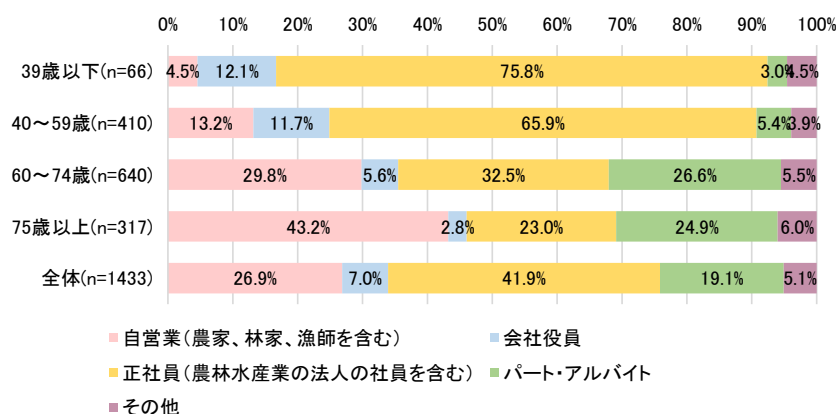
問 27 地震発生前、お仕事をされていたか（世帯の中で、主な収入を得ている人）。

・世帯主が 59 歳以下の世帯では、ほぼすべての世帯がお仕事をされている。



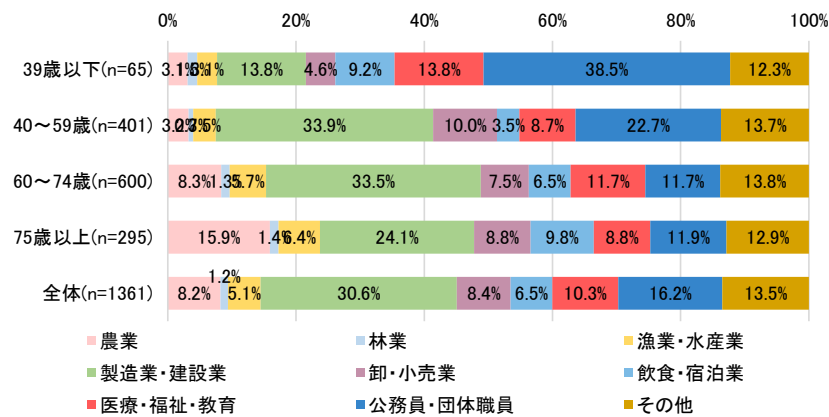
問 28 地震発生前のお仕事の形態をお答えください。（お仕事をしていた方、1つに○）

・世帯主が 59 歳以下では正社員が多く、60 歳以上では自営業の割合が高くなる。



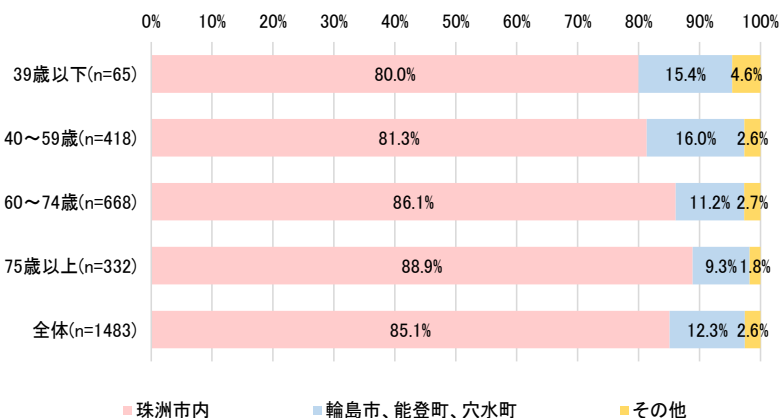
問 29 地震発生前のお仕事の業種をお答えください。(お仕事をしていた方、主な収入源 1 つに〇)

・全体では、製造業・建設業が最も多く約 31%、公務員・団体職員が約 16%である。農林水産業は合わせて 14.5%である。39 歳以下は公務員・団体職員の割合が高い。



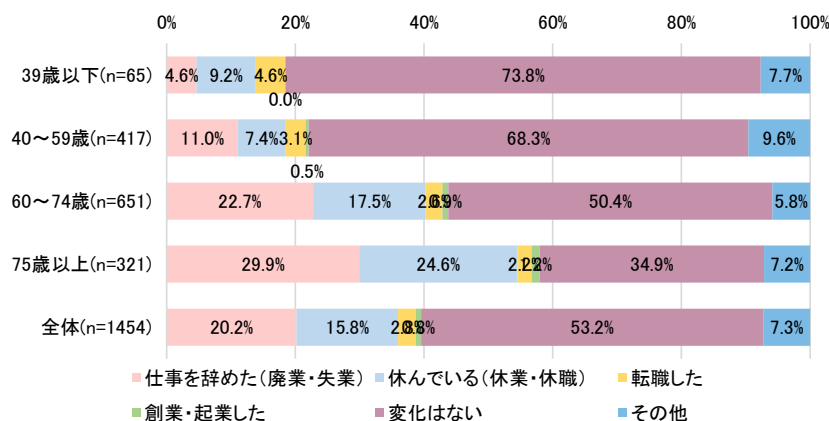
問 30 地震発生前、あなたの職場はどこでしたか。(お仕事をしていた方、1 つに〇)

・全体で約 85%の世帯主が珠洲市内で仕事をされていた。一方で約 15%は珠洲市外で仕事をされていた。



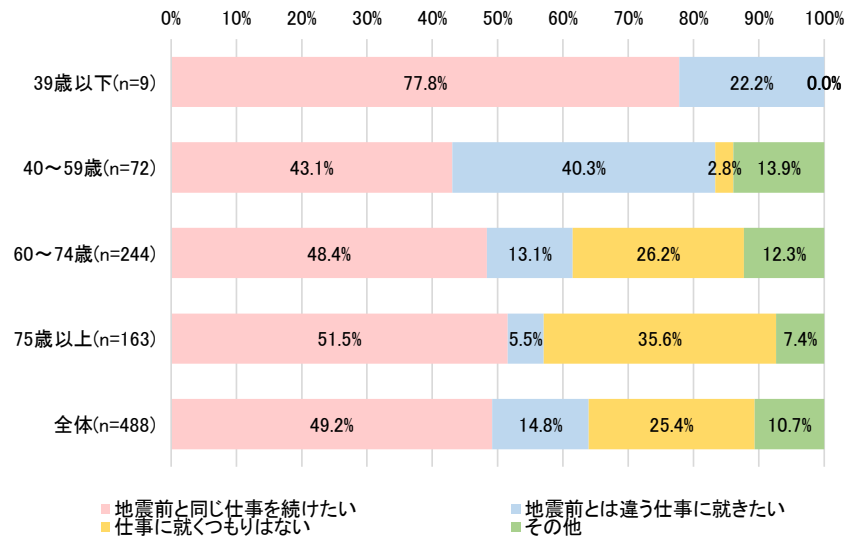
問 31 地震前後であなたの就業形態に変化はありましたか。(お仕事をしていた方、1 つに〇)

・世帯主が 59 歳以下では「変化がない」が約 7 割を占め、60 歳以上では「仕事を辞めた」「休んでいる」の割合が多くなる。



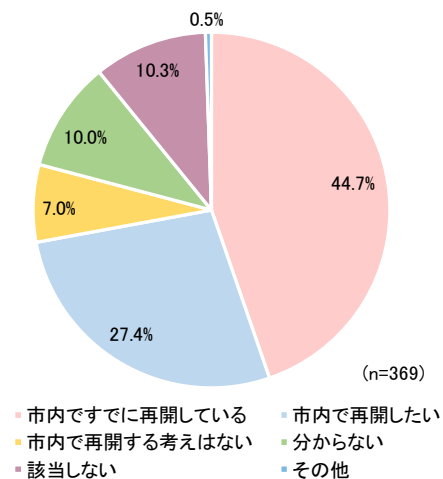
問 32 問 31 で「1. 仕事を辞めた（廃業・失業）」、「2. 休んでいる（休業・休職）」を選んだ方にお伺いします。今後、どのように働きたいですか。（1つに○）

- ・全体で約 5 割の世帯が「地震前と同じ仕事を続けたい」と回答された。特に 39 歳以下（回答が少ない）では約 78%となっている。
- ・一方で 40～59 歳で約 40%が「地震前とは違う仕事に就きたい」と回答されている。



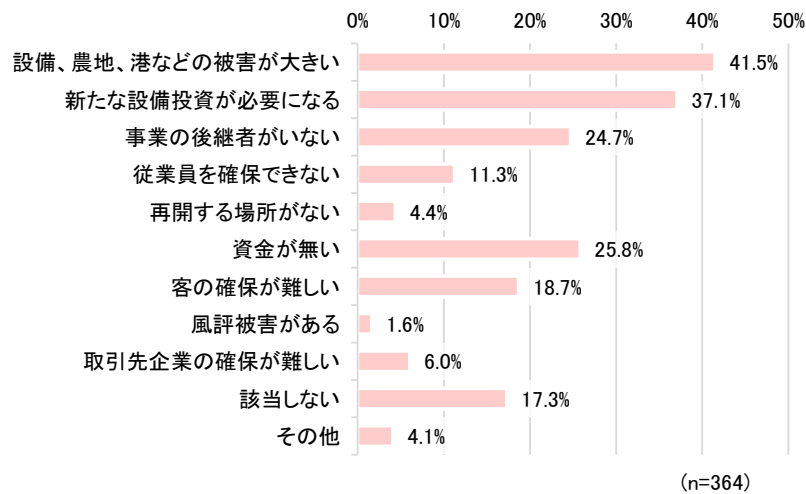
問 33 地震発生前、珠洲市内で自営業、農林漁業を営んでいた方にお伺いします。珠洲市内で事業を再開したいと思いますか。（1つに○）

- ・「市内ですでに再開している」が約 45%、「市内で再開したい」が約 27%である。



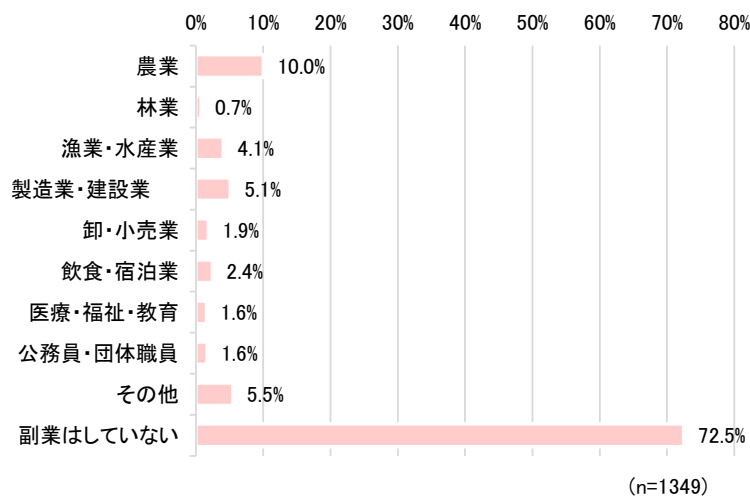
問 34 地震発生前、珠洲市内で自営業、農林漁業を営んでいた方にお伺いします。珠洲市内で事業を再開するうえでの課題は何ですか。(主なもの3つまで)

- ・「設備、農地、港などの被害が大きい」「新たな設備投資が必要になる」が約4割である。
- ・次いで「資金が無い」が約26%、「事業の後継者がいない」が約25%である。



問 35 問 27 で「1. お仕事をしていた」と答えた方に伺います。副業をされていれば、その業種をお答えください。(すべてに○)

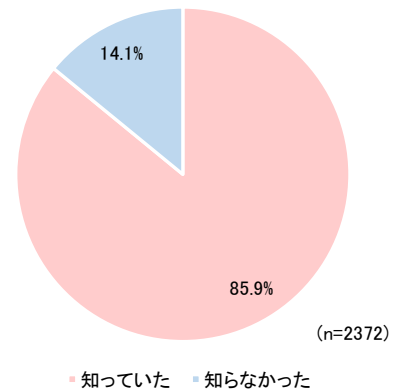
- ・「副業をしていない」と回答された世帯は約73%である。次いで「農業」が10%と続く。



5. 防災に対する備え、考え方

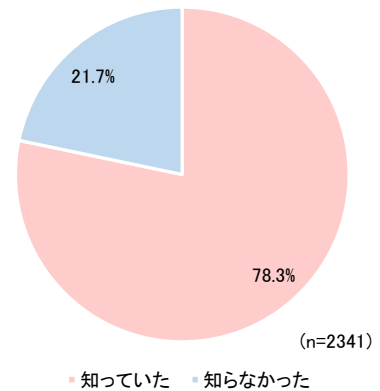
問 36 地震発生時（令和6年1月1日16時10分）に、あなたはお住まいの地域にある指定避難所を知っていましたか。

- ・避難所を知っていた割合は約86%である。一方で知らなかった世帯は約14%に及ぶ。



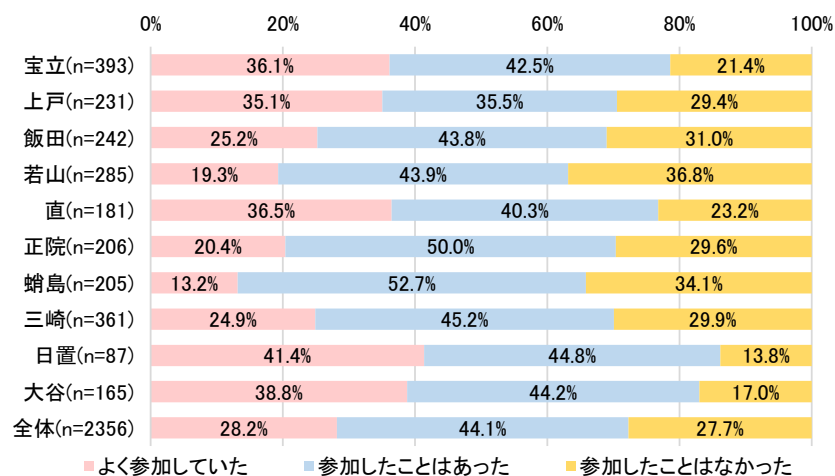
問 37 沿岸部の地域を「津波浸水想定区域」として設定し、津波・大津波警報が発表された時の「避難の必要性」を呼びかけてきましたが、あなたは知っていましたか。

- ・津波・大津波警報の際の「避難の必要性」を知っていた割合は約78%である。一方で知らなかった世帯は約21%に及ぶ。



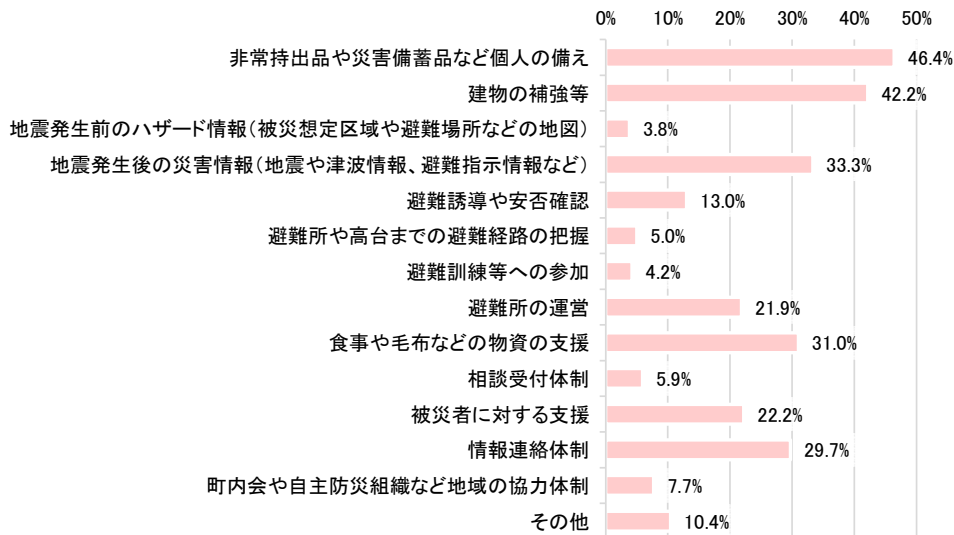
問 38 あなたは、今回の地震以前に、町内会などが行う避難訓練や行政などが行う講習会に参加したことがありますか。（1つに○）

- ・全体で参加したことがある世帯は約7割である。
- ・「よく参加していた」と回答された世帯が多い地区は、日置（41.4%）、大谷（38.8%）である。次いで直（36.5%）、宝立（36.1%）、上戸（35.1%）と続く。
- ・一方で「参加したことはなかった」と回答された世帯が多い地区は、若山（36.8%）、蛸島（34.1%）である。



問 39 あなたは今回の震災で、不足、不十分だと思ったことはありますか。(主なもの3つまで)

- ・「非常持ち出し品や災害備蓄品など個人の備え」が約46%と最も多く、次いで「建物の補強等」が約42%である。
- ・「地震発生後の災害情報」(33.3%)、「食事や毛布などの物資の支援」(31.0%)、「情報連絡体制」(29.7%)を挙げる市民も多い。

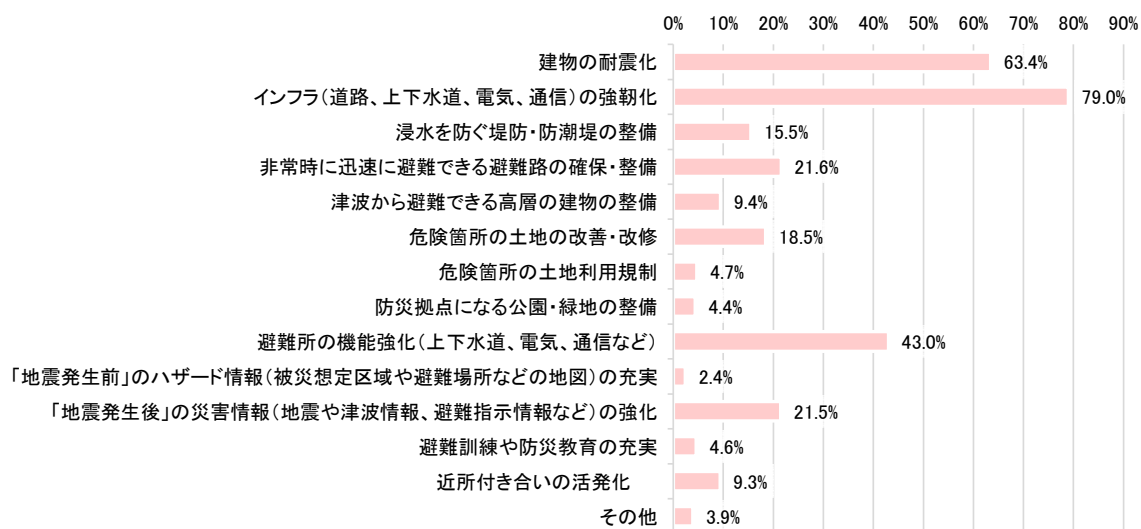


(n=2236)

問 40 今後、珠洲市を災害に強いまちとするため、どのような防災対策が重要だとお考えですか。

(主なもの3つまで)

- ・「インフラ(道路、上下水道、電気、通信)の強靱化」(79.0%)、「建物の耐震化」(63.4%)、「避難所の機能強化(上下水道、電気、通信など)」(43.0%)の割合が高い。
- ・次いで「非常時に迅速に避難できる避難路の確保・整備」(21.6%)、「地震発生後の災害情報の強化」(21.5%)である。

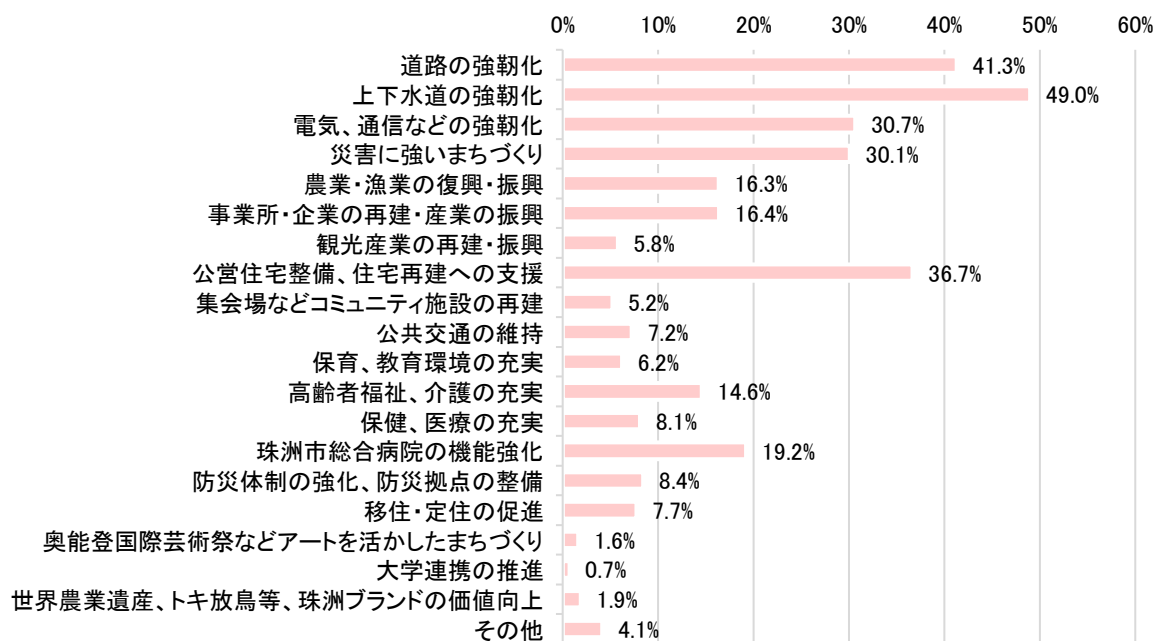


(n=2236)

6. 復興まちづくり

問 41 今後5～10年程度の珠洲市の振興にむけ、復興まちづくりに何を望まれますか。(主なもの3つまで)

- ・「上下水道の強靱化」(49.0%)が最も多く、次いで「道路の強靱化」(41.3%)、「公営住宅整備、住宅再建への支援」(36.7%)である。
- ・「電気、通信などの強靱化」(30.7%)、「災害に強いまちづくり」(30.1%)を望む声も多い。



(n=2236)